こどもたちのよりよい教育環境づくりをめざして

資料４

三田市教育委員会では、平成 30 年 7 月に「市立学校のあり方に関する基本方針」を策定し、望ましい学校規模を定め、学校再編に取り組んでいます。現在、上野台・八景中学校の統合については決まっていますが、他の学校については決まっていません。しかし、この間においても少子化は進行しており、学校の小規模化に伴う教育上の課題によるこどもへの影響を大変危惧しています。

1　望ましい学校規模（適正規模）

小学校　各学年 2～3 学級（合計 12～18 学級）
中学校　各学年 3～6 学級（合計 9～18 学級）

（「三田市立学校のあり方に関する基本方針」より）



2　学校の小規模化に伴う教育上の課題

小規模校のメリットとして
・目が行き届きやすく、個に応じた指導を行いやすい
・発表など一人一人の活躍の機会が増える
・運動場や特別教室等の施設や備品が余裕を持って使える
などがありますが、次のような課題もあります

人　間　関　係

・人間関係の固定化や序列化が起きやすい
・発言力の強いこどもに引っ張られがちになる
・トラブルが起きたとき、相手と距離を置くことができない
・進学の際に大きな集団への適応が難しくなる可能性がある



学　習　活　動

・多様な物の見方や考え方、表現方法等を、多くの友だちから学ぶことが難しくなる
・球技や合奏等の集団活動で、経験や体験ができないことが増える
・集団の中で社会性や協調性を養うのが難しくなる
・新しく人間関係をつくるスキルやコミュニケーション能力が身につきにくい

学　校　運　営

・教職員数が減るため、こどもを多くの目で見守ることができなくなる
・様々な課題に対して、チームとして組織的に取り組むことができにくくなる
・専門性や経験などのバランスを考えた教員の学年配置ができなくなる

3　学校教育が変わる、これからの教育

これからの学校教育は、変化の激しい社会を生き抜くために必要な「生きる力」を育むことを目的としています。そのため、基礎・基本の知識・技能を身につけることはもちろんですが、こどもたちが、様々な意見や考え方を持った人々と協働し、議論するなどを通して、思考力や判断力、表現力を身につけ、多様な人間関係の中で他者と協調できる社会性を身につけることが大変重要となってきています。

子どもたちに身につけさせたい資質・能力の三つの柱
～これからの複雑で変化の激しい社会の中での必要な力～

① 何を知っているか 何ができるか
（個別の知識・技能）

②知っていること、できることをどう使うか
（思考力・判断力・表現力）

③どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか（学びに向かう力・人間性・社会性）

国は、上記の資質・能力を身につけるために、令和3年「令和の日本型学校教育の姿」として、一人一人に最適化された学びと、協働的な学びを両立し、こどもが自ら学び続ける力を育てる新しい学校教育の方向性を示しました。

個別最適な学び

ICT 教育（タブレット）
少人数指導（ハーフサイズ）
個に応じた指導の充実
基礎・基本の学力の定着

一体的に取り組む

協働的な学び

こども同士の学び、多様な他者との学びを重視し、互いに尊重し合い、協働し、考え合うことを通して、最適な答えを導き出す学習を進める

こども同士が学び合い、高め合う教育環境の必要性

これからのこどもたちの教育には、多様な個性と触れ合い、互いに刺激し合い、社会性と協調性を育み、切磋琢磨しながら成長していく教育環境が求められています。

望ましい学校規模を確保し、こどもたちの教育環境の充実を図り、よりよい教育の実現をめざしていきましょう。

協働的な学びの具体例

知識の習得だけではなく、思考力・判断力・表現力等や、主体性を持って多様な人々と協働する態度を養うことが重要。

こどもが学習の見通しを立て、主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組み、学習したことを振り返る活動が大切。

（例）「言語活動」を通じた授業改善



「他者と協働し主体的に取り組む学習活動にすること」

①多様な情報を活用して協働的に学ぶ

それぞれの生徒が手に入れた多様な情報を出し合い、情報交換しながら、学級全体で考えたり、話し合ったりして、課題を明確にしていく。

② 異なる視点から考え協働的に学ぶ

それぞれの生徒の異なる視点や考えを出し合い、意見交換していくことで、事象に対する認識が深まり、学習活動をさらに探究的な学習へと高めていく。

③ 力を合わせたり交流したりして協働的に学ぶ

生徒同士で解決できないことも、地域の人や専門家などから学んだことを手掛かりに学ぶことができる。また地域の大人などとの交流は、生徒の社会参加の意識を高める。

④ 主体的かつ協働的に学ぶ

協働して学ぶことが、一人一人の生徒の考えを深め、学習に対する自信と自分の考えに対する確信を持たせることになる。また個の学習と集団の学習が互いに響き合うことで、質の高い学習を成立させることになる。

（小学校・中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編より抜粋）